

自由と民主主義、法の支配、人権など 価値観を共有する韓国、日本、米国の連携は不可欠

開催日：2024年2月21日 開催場所：ホテルオークラレストラン

東海財界倶楽部の例会が2月21日、名古屋市東区のホテルオークラレストランで開催された。今回が57回目で、今年最初の例会となった。午後6時半から駐名古屋韓国総領事館の金星秀（キム・ソンス）総領事が「韓日関係の過去・現在・未来に向けて」と題して講演した。日韓関係の進展・強化が加速する中、金総領事は韓国と日本は「ドイツとフランスのように成熟した関係を志向すべき」などと述べ、企業経営者ら約30人の参加者は熱心に耳を傾けた。



金星秀総領事

金総領事は冒頭、「私が生まれた所は海がなく、山に囲まれた地域で、東京とソウルの間を往来する飛行機が私の故郷の上を飛ぶので、あの飛行機でどこかに行ってみよう、と思ったのが外交官という仕事に繋がりました」「外交官になってからは慶応大学での研修を含め十数年以上日本とのつながりを大事にしながら対日外交に携わることができました」と自己紹介。94年韓国外務省に入省、2001年駐日本大使館一等書記官、パキスタン、アイルランド勤務、在ホノルル副総領事を経て2018年在ガーナ特命全権大使となり、22年3月から現職。「地球を1周するようにぐるぐる回りました」と外交官としての30年の半生を振り返った。

金総領事は韓国と日本は「近くて近い国」として広隆寺（京都）の国宝「弥勒菩薩半跏思惟像」と6～7世紀に作られた韓国の半跏思惟像が酷似、味噌の作り方や日本側の史料（新撰姓氏録）から平安時代の日本の支配層の2割強が韓半島系の名字だったなど歴史的共通点を解説。韓流ドラマの日本での人気や韓国でのアニメ文化の浸透にみる文化交流の深さを指摘した。

そして国交が正常化した1965年に締結された韓日基本条約では韓日請求権並びに経済協力協定や在日韓国人の法的地位協定（特別永住権）などにより両国の友好関係が発展。経済で

は日本からの輸出先が韓国は中国、アメリカ、ベトナムに次いで4位、輸入は3位。韓国からの輸出先は日本が3位、輸入は7位。一時両国関係は冷え込んだが、尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領就任後は「韓日経済が正常化へ加速している」とした。尹大統領は（経済学者の父親の来日で）子供のころ日本に滞在したことが日本への信頼感に繋がっていると話し、広島サミットで、歴史上初めて両国の大統領と首相が韓国原爆犠牲者の慰霊碑に共同参拝した意味の大きさを説明した。

金総領事は韓日関係の今後について、今、世界はグローバル複合危機の中にあるとして「米中の争い、ロシアのウクライナ侵攻、ハマスとイスラエルの戦いに加えて台湾、北朝鮮の核・ミサイル、拉致の問題などがある。自由と民主主義、法の支配、人権など価値観を共有する韓国、日本、米国の連携は不可欠です」と強調。韓日の成熟した関係の発展に期待感を示し、「来年は韓日国交正常化60周年。韓日が未来に向けて心から歩み寄ることが大切です」と結び、会場から大きな拍手が送られた。

講演の後、懇親会に移り、「株式会社 mobility career」の加藤滋樹会長の発声で「日韓関係のさらなる発展と皆様のご健勝を祈って」乾杯し、参加者らは交流を深めつつ和やかに歓談した。